

第398号 2016年4月1日
弘前大学総務部広報・国際課

学術講演会・研究発表会・公開講座

弘前大学資料館企画展示について

弘前大学資料館では第10回企画展として「メキシコ・オアハカの民芸とイサイアス・ヒメネスの動物木彫り」を5月9日まで開催いたします。

弘前大学グローバル人材育成事業，メキシコチームは教員・学生・市民の8人で，昨年9月にメキシコ国オアハカ市を訪れ，スペイン語研修，木彫や織物などの民芸視察，現地市民や大学との文化交流などをおこないました。本展はオアハカの魅力を紹介するとともに，この研修の成果を披露するものです。

みなさまのご来館をお待ちしております。



○弘前大学資料館第10回企画展

「メキシコ・オアハカの民芸とイサイアス・ヒメネスの動物木彫り」

会 期：平成28年3月28日（月）～5月9日（月）
（日・祝・休日は休館）

時 間：10：00～16：00

場 所：弘前大学資料館 企画展示室

本件問い合わせ先

・弘前大学資料館

電話：0172-39-3432 E-mail：jm3432@hirosaki-u.ac.jp

・弘前大学グローバル人材育成事業・メキシコチーム（富田晃教育学部准教授）

電話：0172-39-3389 E-mail：atomita@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学出版会からのお知らせ

○人文学部 李 永俊・渥美公秀 監修 飯 孝行・関 嘉寛 編集

「東日本大震災からの復興（3） たちあがる のだ —北リアス・岩手県九戸郡野田村のQOLを重視した災害復興研究—」（A5判，278頁，定価 3,672 本体 3,400円＋税）を出版しました。

～紹介文～

本書は、東日本大震災で津波被害を受けた、岩手県九戸郡野田村の被災と復興をテーマとする3巻シリーズの最終巻である。村民自身の語りと声（第1巻）、村の歴史と生業の営み（第2巻）、そして本巻では、野田村とその復興過程との間で深い絆を結んできた研究者たちが、それぞれの専門（社会学、社会心理学、法学、経済学）の見地から復興の最前線を記述する。野田村の人たちはどのような思いで生活再建に取り組んできたか、社会福祉協議会などでどのような支援を行ってきたか、災害ボランティアはなぜ野田村へ通い、何を感じてきたのか、外部自治体からの応援職員はどのようなかたちで復興に寄与したか、移住を選択させる要因は何か。具体的で詳細な分析の行間からは、確かな未来を見いだした野田村の今の姿が「たちあがる」。野田村への、そして同じように東北大震災からの復興を現在進行形で経験しているすべての人たちへの応援と感謝の書である。



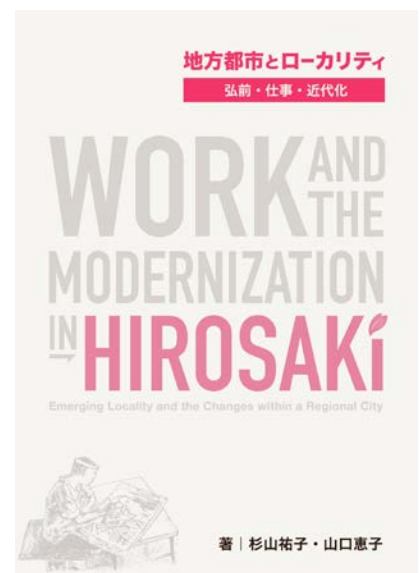
ご興味をお持ちの方は大学生協または市内の書店でお買い求め下さい。

○人文学部 教授 杉山祐子・山口恵子 著「地方都市とローカルティ-弘前・仕事・近代化-」（A5判・306頁，定価3,456円：税込）を出版しました。

～紹介文～

まちの佇まいは、そこに暮らす人々の仕事，家族，人生におけるそれぞれの営み，そしてまちの産業といった異なる時間軸が交差するところに立ち現れる一。本書は、旧城下町の歴史をたもちつつ常に外からの人や機関の流入に応じて変化し続けてきた地方の「まち」，青森県弘前市における「近代化」と「ローカルティの生成・再編」の過程を，6年間にも及ぶ綿密な社会学・人類学的フィールドワークおよびデータ検証を通じて明らかにする。

中心市街地の自営業商店，ものづくりの職人，工務店・建築会社，タクシー会社において，いかにして近代化がすすめられ，「まち」としてのアイデンティティが形成・再編されてきたのか。人々の地域間移動，イエの継承，ニーズの変化への対応など，多様な問題が社会学・人類学的理論と手法により鮮明に映し出される。地方都市の時間における仕事・暮らしのダイナミックな変化を浮き彫りにした待望の本格的な研究！



ご興味をお持ちの方は大学生協または市内の書店でお買い求め下さい。

○Radiation Environment and Medicine 編集委員会 編「Radiation Environment and Medicine V 01.5 No.1」（A4変形判・74頁，定価1,188円：税込）を出版しました。

～紹介文～

弘前大学は，さまざまな原子力関連施設が立地する青森県における唯一の総合大学として，万が

一の事態に際して地域の安心・安全を確保するため、被ばく医療に関連する取組みを推進してきました。平成22年度から平成27年度まで、「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」を青森県との連携・協力事業として実施し、この事業の一環として、緊急被ばく医療に関連する研究成果の共有および情報発信を目的に、平成24年3月に被ばく医療に関する学術誌 Radiation Emergency Medicine を発刊しました。本誌は、世界に発信しグローバルなつながりの中で研究を深めていくために、英文での発行としました。

この度、第5巻1号から、より広い分野からの投稿に対応する目的で、誌名をRadiation Environment and Medicine に改めました。

第5巻1号には、放射線計測・線量評価・放射線管理等の領域における論文に加えて、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科の秋葉澄伯先生、University College DublinのJames Mc Laughlin 先生、アメリカ合衆国デカルブメディカルセンターのMie Suzuki-Fowler先生、東京医療保健大学の草間朋子先生による特別寄稿、平成27年5月に弘前市で開催された2nd Educational Symposium on Radiation and Health by Young Scientists (ESRAH2015) の報告が掲載されています。

今後も、疫学調査、生物影響、線量評価、被ばく医療教育、放射化学分析、放射線看護、放射線計測、放射線防護、臨床研究など放射線科学の幅広い分野にわたる論文を掲載していく予定です。皆様からの投稿をお待ちしております。※本誌は英文表記となります。

ご興味をお持ちの方は大学生協または市内の書店でお買い求め下さい。

○「弘前大学出版会設立10周年記念講演会講演録（亀山郁夫氏、養老孟司氏の講演録）」をHPへ掲載し、小冊子を作成しました。

URL: <http://www.hirosaki-u.ac.jp/hupress/special-page/ten-years>

～紹介文～

現代日本文化をリードされている亀山郁夫氏（名古屋外国語大学学長）、養老孟司氏（東京大学名誉教授）をお迎えして、開催した「弘前大学出版会設立10周年記念講演会」（2014年7月4日）の講演録を出版会ホームページへ掲載いたしました。

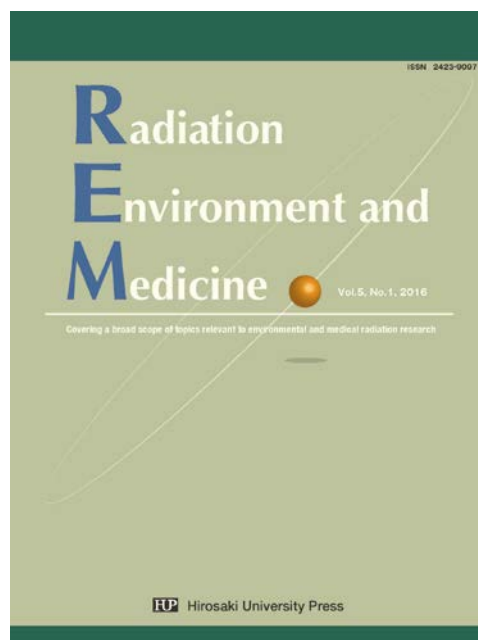
本講演会は、学内関係者はもとより一般市民のみなさまにもご好評を得、満員の盛況ぶりであったことから、より広く講演内容をご覧いただけるよう、ホームページへ掲載いたします。（両先生が特別のご厚意で、講演録をおまとめくださり、同内容は小冊子でもご覧いただけます。）

ご興味をお持ちの方は、ぜひ出版会ホームページをご覧ください。小冊子については、弘前大学附属図書館（本館及び分館）1階のカウンターでご自由にお持ちいただけます。部数に限りがございますので、ぜひお早めに附属図書館にご来館くださるようお願いいたします。

学 内 掲 示 板

事務局庁舎改修に伴う学長直言箱の撤去について

事務局庁舎改修のため、庁舎1階に設置しておりました学長直言箱を撤去させていただきます。



きます。撤去期間中、ご迷惑をおかけいたしますが、事務局庁舎以外に設置しております学
長直言箱をご利用いただきますようよろしくお願いいたします。

撤去期間：平成27年8月17日（月）～平成28年8月末日（予定）

問い合わせ先：弘前大学総務部総務課（秘書室） 内線3004

国立大学協会情報誌「国立大学」について

本学会が会員となっている「一般社団法人 国立大学協会」では、各国立大学の現状や優れた取り組みなどを分かりやすくまとめた国立大学協会情報誌「国立大学」を作成しています。

「国立大学第39号」では、授業や課外活動に真剣に取り組む学生、グループの活動の紹介する「今、学生は！」のコーナーにおいて、本学のサークル「H・O・T Managers」が紹介されています。ぜひご覧ください。

H・O・T Managers掲載「国立大学第39号」

<http://www.janu.jp/report/koho/39gou.html>

最新号「国立大学第40号」

<http://www.janu.jp/report/koho/40gou.html>

下記URLより最新号を含め、今まで発行されたバックナンバーをご覧ください。

<http://www.janu.jp/report/>

その他、第36号・第31号・第28号・第25号・第23号・第22号・第18号において、本学記事が掲載されていますのでご覧ください。

編集担当から：講演会，研究発表会，部局行事等の掲載原稿を発行予定日（毎月1日と16日の2回）の7日程度前までに，下記担当にご提供ください。お待ちしております。

◎担当：総務部広報・国際課広報・国際グループ

E-mail: jm3012@hirosaki-u.ac.jp FAX:39-3498 内線：3029